



学校だより

(12月号) 令和3年11月30日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

◎ 夢(ゆめ)にむかって ともに学びあう学校

- ・すすんで勉強する子
- ・自分からあいさつのできる子
- ・仲よくたすけあう子
- ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 手洗い うがいをしっかりしよう

横田めぐみさん(2)

～横田めぐみさんのご両親の思いを胸に～

校長 白石 徳一郎

11月2日(火)に6年生を対象とした特別授業を行いました。今月は特別授業についてお話しします。

私は小学1年生の時に、横田めぐみさんに大変お世話になり、めぐみさんとの思い出があること、母と横田早紀江様はずっと親しくさせていただいており、今でも連絡を取り合っていることなどから、めぐみさんのご両親の思いを胸に、家族のきずなを主題とした道徳の特別授業を行いました。

めぐみさんは小さい頃からおりこうで、しっかりしていて、勉強も運動も歌もバレエもできて、明るくかわいなお姉さんでした。クラスでも人気者で、ご家族が新潟に転勤される時は、新幹線のホームに、めぐみさんのお友達やお父様の会社の方々、お母様のお友達などたくさんの方々がお見送りに来ていたことを今でも覚えています。

幸せに暮らしていためぐみさんが突然、拉致されてしまったこと、ご両親は44年間めぐみさんを助けるために一生懸命活動をし、すべての拉致被害者の一日も早い帰国を願っていること、北朝鮮の人すべてが悪いわけではないことなどについてお話ししました。児童はご両親からのメッセージ動画を真剣な表情で見っていました。すべての児童が家族のきずな、大切さについて気付いてくれました。拉致問題について考えてくれた児童もいました。

北朝鮮当局による拉致とわかってから20年以上が経過しました。「昔のこと」と思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、このような重大な人権問題が今も続いていることを知ってもらい、ご両親からのメッセージをこれからの生活に生かしてもらえたら幸いです。



兼松 康 氏撮影

＜ご両親からのメッセージ＞(抜粋)

家の中で家族と一緒に生活するという事は当たり前のことなんですけど、本当はすごく幸せなことなんです。家族が仲良く暮らすということ、気をつけていただければ一番幸せだと思います。

だまって見守ってくれて、本気で思ってくださいるのはお父さん、お母さんだけ。この子のためと思っていられることをわかって過ごされるといいと思います。

＜児童の感想＞(一部)

- ・いつも家族と一緒にいたから、一緒にいることは当たり前だと思っていました。でも、だからこそ家族がいなくなった悲しさがわかりました。これからは、家族と一緒にいる時間を少しでも長くして、家族を大切に過ごしていきたいです。
- ・本当なら当たり前だけど、その当たり前がなくなるというのは、ものすごくつらく、悲しいことなんだなと思いました。そして、今、家族がいて、一緒に暮らしているのは、とても幸せなことなんだなと思いました。
- ・「家族と生活する」ということは、本当に幸せなんだと改めて感じました。これからは、家族との時間、一日一日を大切にしたいです。
- ・家族はとてもあたたかくって、私のことをいつも考えてくれる。こんなことを考えながら家で過ごせたらいいなと思いました。本当の宝物は、今、幸せに暮らせることなんだと感じました。
- ・私たちが抗議を続けていかないと、拉致がくり返されてしまうと思います。身の周りの人が拉致されていないので真剣に考えてみる機会がなかったのですが、今、改めて本当に幸せなこととはどういうことか、そして拉致をくり返さないために自分たちができることを知ったので、今後、生きていく上で大事にしたいです。
- ・今回授業を受けて、少しでも時間をずらしていたらめぐみさんは助かったのではないかと、一つのことで、簡単に幸せがうばわれてしまうんだとか、色々なことに気づきました。また、拉致した人に対して、人の幸せをうばって何が楽しいのか分からないし、そんなことをして何になるのか、自分が相手だったらどう思うか考えた上で、自分の行動一つ一つに責任を持ってほしいなと思いました。あと、自分にとっての当たり前はすごく幸せなことなんだと改めて気づきました。
- ・今、こうやって生きているのも当たり前なことだけど、よく考えたら幸せなことなんだなと思いました。家でこの事件のことを話して自分たちでもできることがないか考えたいです。
- ・本当は泣きたいのをがまんしながら話しているのだと思いました。「めぐみさんが亡くなった(北朝鮮当局の発表があったが、後日DNA鑑定により本人ではないと判明)」それを聞いて、北朝鮮の人を全員うらんでもおかしくないのに、冷静な判断ができるめぐみさんの父と母はずいと思いました。

